

優秀賞

未来の私への約束

青森県五所川原市立五所川原第一中学校

3年 大石 ちえり

『20歳の私。今住むのは、日本から遠く離れた外国の街。日々に感謝しながら懸命に生きている。』

小学校の卒業文集で私が書いた未来日記。体験したことのない文化に囲まれて、刺激を受けながら海外で暮らしたいという、私の小さい頃からの夢。

夢の実現のために必要なことは語学の勉強だと思った小学生の私。しかし、当時の私には独学も難しく、田舎町に住む私の家の近くには英語の塾なんてなかった。そこでチャレンジしたのはオンライン英会話。外国人と話したことも、パソコンに触ったこともなく、初めてのレッスンはとても緊張したことを覚えている。10歳の私が知ってる英語は「ハロー。」「サンキュー。」と「マイネームイズちえり。」だけ。ドキドキしながら、パソコンの画面をのぞいた。けれども、レッスンが始まれば不安は吹き飛んだ。単語がわからなくてもなぜか相手の言いたいことが大体わかったし、笑い合えばナイスコミュニケーションだった。伝わらないことすらも楽しくて、伝言ゲームみたいで面白かった。時々スマホの翻訳に頼ったが、結局のところ、小さな私にも一生懸命身振り手振りで伝えようとしてくれる先生と、私の伝えたいと思う気持ち、これだけで十分だった。

毎晩夜9時、パソコンを開いて行う英会話は私の楽しみとなり、さまざまな国の先生との出会いがあった。ケニアの先生はいつでも明るくハッピーで、いっぱい元気くれた。落ち着いた雰囲気セルビアの先生は、シャイな日本人と波長が似ていて話しやすい。ギターを弾いて聴かせてくれたメキシコの先生もいたし、私の誕生日にハッピーバースデーを歌ってくれたセルビアの先生もいた。ジンバブエの先生とは一緒にゲームをしたり、ハンガリーの先生には私が漢字を教えてあげた。イギリスの先生とは日本のアニメの話題で盛り上がり、アメリカの先生は英検を控え緊張する私を励ましてくれた。私の飼ってる猫ちゃんがカメラの前を陣取って、画面いっぱいに猫ちゃんのお尻が映るというハプニングで大笑いしたことも楽しい思い出だ。

毎日顔を合わせる先生たちは、次第に私にとって大切な人になっていった。フィリピンで大型台風が発生した時は、何人もの先生方が被災した。私は心配で、フィリピンのニュースを毎日チェックした。少しでも力になろうと寄付をしたり、心から先生方の無事を祈った。英会話スクールの本社も被災し、復旧

までレッスンは休止となった。数週間後、やっと先生方と画面越しに再会できた時は涙が出るほど嬉しかった。反対に、日本で大きな災害が起きた時は、私の無事を心から心配してくれた。先生の中には、内戦で外国に避難中のイエメンの先生もいた。飢餓に苦しむイエメンの人々の生活ぶりを教えてくれ、今ある平和な暮らしについて考えさせられた。私は今までに 17 カ国もの先生方と出会うことができ、語学力の他に、グローバルな視点が自然に身についたと思う。この広く大きな地球は、私にとって、だんだん身近なものになっていった。人種や言葉、文化の違いも素敵なオリジナリティーであって、今では全てが私の愛すべきものだ。

そして今、私の海外で暮らしてみたいという夢は、より一層具体的なものになった。海外ボランティアに挑戦し、自身の生活だけでなく、世界の人々の生活や社会全体にも貢献したいという夢に変化した。なぜなら、フィリピンの国民性であるホスピタリティの精神に感銘を受けたからだ。フィリピンでは貧富の差が激しく、貧困に苦しんでいる人も多い。そのため、当たり前に関係や近所の人がお互いに支え合い、力を合わせて生きている。困っている人を助ける。自分ができることはしてあげる。持ってる人が分け与える。難しいことではあるが、私もそういう人間でありたいと切に思う。

今の地球は、コロナに始まり、各国で頻発する地震や洪水などの自然災害、それに伴う食糧危機や燃料危機、さらには、物価高からの経済不安、難民も増え、治安も悪化。ウクライナで始まった戦争も長期化しており、人ごとではない。地球全体が混沌としていて、どの国に住む人々も大変苦難な時代を生きている。

けれども、私は絶望はしていない。今のこの暗闇は夜明け前の暗さだと信じているから。意見や立場が違う人々とも争うことなく、中庸であることを大切にしながら、思考と行動で、私の望む未来を選び取っていくことを未来の私に約束する。

「Let's get started! さあ、始めよう。」

私の部屋の片隅で、パソコンを開く夜の 9 時。今日も世界の先生に会いに行く。